

ISSN 0910-2396

# 野鳥大判

—北海道—

第 70 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和62年12月21日



オシドリ 1986. 4. 12 北村砂浜 撮影者 佐藤 幸典



## も く じ

愚想庵日誌	大坊 幸七	2
帯広畜産大学構内と付属農場の野鳥	藤巻 裕蔵	3
ハシブトガラスのペリットにみられた シウリザクラとツタウルシの核果	斉藤新一郎	6
誌上写真展		8
ウトナイ湖探鳥会でコウノトリ		9
探鳥会報告		9
探鳥会案内		12
鳥民だより		12

## 愚 想 庵 日 誌

大 坊 幸 七

8月6日

友人の田辺氏から郵便が届いた。一見してカセット・テープであることが判った。

氏は高等学校の先生である。と同時に愛護会会員でもある。

氏とは3年前、千歳の一泊探鳥会で、千歳の2.5万分の地図に私が西偏8°10'の磁北線をひいてあることからO.Lの同士であることがわかり、それ以来年に1度、二人で未知の地形に挑戦している間柄である。

氏は決しておしゃべりではない。むしろ寡黙な人である。しかし、5分10分話題がとぎれても、気づまりを感じさせない人柄である。

氏がわざわざ送ってくれたテープに対しさっそく次の礼状を書いた。

§ 7日の午後、家人が運んでくれた郵便物のなかに一見してあなたから「いつぞやお話しのあった」テープであることがわかりました。さっそく開封しました。

「音でつづる美唄の春と夏」(森の鳥・草原の鳥)編、60分のものでした。さっそく聞いてみようか、それとも翌朝目覚めの時間までとっておこうか、ほんの少し迷いましたが、すぐ聞くことにしました。

私の書斎兼寝室のベッドの上に長々となり、くつろいで聞きました。遠くバックからの鳥の声も入ると29種ほどにもなりましょうか。

実に良くできています。

公園のせせらぎの音、アマガエルの声、エゾハルゼミの声。鳥ばかりではなく、このような自然の声がかえって収録の効果をあげているのではないのでしょうか。

そのほか、気のついた点をいくつかあげますと、

- ・ナレーションがゆっくりとし、むだのない語り口であったこと、それと情景が出ていたこと。
- ・2〜3種ごとにまとめて、種ごとにたっぷり時間をかけているので鳥の声の特徴や、聞きなしの創作もでき

ること。

・前に述べた自然の効果が生きていて、まるで山野の大地に寝転んで天地の間に魂の遊ぶ感じがしたこと。

などです。

ここには探鳥会では聞けない鳥の自然があります。

例えばキビタキなどは、私は2通りしか知りませんが、あなたのテープではかなり複雑な形があるんだなあと驚きました。

機材を肩や手にし、ただ一人静かに自然に埋没し自然と一体化したからこそ、鳥もあるがままでの声を聞かせてくれたのでありましょう。

とにかく元NHK中坪さんの「野鳥入門」に優るとも劣らない秀作だと思います。本道の鳥ばかりですからかえってわかり易いのではないのでしょうか。

一つのことを打ち込んでいるあなたに私は学びました。あらためて敬意を表します。

しばらく鳥と離れていた私も、これを聞いて“鳥”もいいなあと思なおしました。

どうも貴重なテープをあつくお礼申し上げます。

私には、なにもお送りするものがないことを残念に思います。

8月8日 終日雨のふる土曜日に、

愚想庵主人

追伸

一つ書きもらしました。

テープの終わりに、探鳥会の模様収録があります。これは傑作だと思います。

本で言えば「挿絵」に相当しましょうか。

あるいは、本の扉の写真と言ってもいいでしょう。

旧海軍、最上級のはめ言葉の「見事なり」です。

一層ご自愛のほどを

不一

〒062 札幌市豊平区西岡2条5丁目8-8

# 帯広畜産大学構内と付属農場の野鳥

藤 巻 裕 蔵

帯広畜産大学は、帯広市の市街地の南のはずれの農耕地帯にある。全体の面積はおよそ190ha、そのうち付属農場が140haである。大学の敷地の西側に売買川がながれ、農場内には防風林や落葉広葉樹の小さな林がある。

私がこの大学に赴任してきたのは、1975年の秋。もう10年以上にもなる。わが家が大学構内にあることもあって、雨天と出張のとき以外は庭にくる鳥をながめたり、調査で鳥の観察をしてきた。これらの資料にもとづいて、「北海道十勝地方の鳥類4・農耕地の鳥類」（山階鳥研報）や「北海道の草地における食性変化と鳥類の生息状況」（日鳥学誌）を発表したが、これらの論文には大学構内と付属農場で観察された鳥類が全てあげられているわけではない。そこで1987年3月までの記録にもとづいて目録を作ってみた。

これまで「北海道野鳥だより」に掲載されてきた各地の野鳥の紹介は、一つの町といったような広い範囲のものが多かった。これらはそれなりに貴重な資料である。しかし、メッシュ法で野鳥の分布図を描こうとするときに（例えば、「北海道のオンドリの分布」（本誌58号）や「北海道のオオツシギの分布」（本誌64号）、これらの資料を利用しようとおもっても、調査範囲があまりにも広すぎて、残念ながら利用できないのである。そこで今回は範囲を狭く限定した。ちなみに、ここで紹介する帯広畜産大学は2万5千分の1の地形図「帯広南部」を「田」字状に区分したときの左下に含まれる。

## 鳥相の概要

記録されたのは106種である。4月から夏鳥の渡来とともに種数が増える。しかし野鳥の生息環境としては、放牧地、草地、畑といった草原タイプが大部分で、林はわずかであるため、繁殖期の主要種はアオジ、スズメ、ノビタキ、ビンズイ、ムクドリ、キツバト、シマアオジ、コヨシキリ、オオジシギ、ハシボソガラス、カワラヒワ、アカゲラ、ホオアカで、草原性の鳥と一部の森林性の鳥である。非繁殖期の主要な種はスズメ、ハシボソガラス、エナガ、シジュウカラ、カワラヒワ、ベニヒワ、カシラダカ、アカゲラ、トビ、ヒヨドリ、ヒガラ、マヒワのような森林性の留鳥と一部の冬鳥であった。線センサスによる結果を図1に示す。この図から鳥の種構成のおおま

かな季節変化がわかるであろう。この他春と秋にはいろいろの渡り鳥が見られ、川があるために水辺の鳥も見られる。

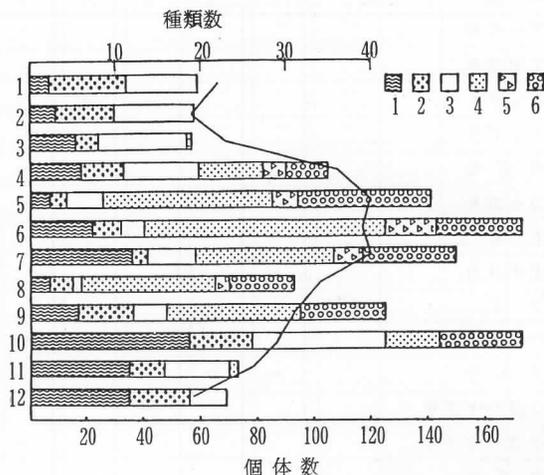


図1 種類数と個体数（線センサスによる）の季節変化。

- 1：スズメ、2：エナガ、ハシボソガラス、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、3：冬鳥、旅鳥、その他は留鳥、4：夏鳥（ノビタキとアオジを除く）、5：ノビタキ、6：アオジ

## いくつかの種について

表にあげた鳥類のうち、いくつかの種について簡単な説明を加えておく。

アマサギ：1983年5月6日に一度だけ飛来。

アオサギ：1981年7月9日に上空通過。

ヒシクイ：1983年4月に7羽の群と1986年4月に5羽の群が上空通過。

シロハヤブサ：1987年3月下旬に1羽飛来。

アオアシシギ：1978年9月30日に飛来。

ヤマセミ：3、10月に稀に売買川に飛来。

カワセミ：1979年6月29日に標識調査で捕獲放鳥。

クマガラ：1977年9月16日、19日、10月1日、1979年9月21日に川沿いの林で観察。

ジョウドウツバメ：札内川沿いで繁殖しているものが稀に飛来。

カワガラス：2、10月に稀に売買川に飛来。

ジョウビタキ：1979年12月2日に雄1羽が飛来。

マミチャジナイ：1981年と1983年の秋に多かった。  
 ツグミ：ハチジョウツグミが1980年2、3月に見られた。  
 メボソムシクイ：6、9月の渡り時期に通過（秋の記録は標識調査による）。  
 コガラ：1984年9月に標識調査で1羽確認されただけ。

ミヤマホオジロ：1979/80年の冬に見られた。  
 ベニヒワ：1977/78年と1982/83年の冬に多かった。  
 ギンザンマシコ：1987年1月イボタの生垣で実を食べているところを観察。  
 ベニマンコ：越冬するものがある。

## 帯広畜大の野鳥リスト

種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖
アマサギ					-								
アオサギ							-						
ヒシクイ				-									
オソドリ					-								
マガモ				-	-	-	-		-				○
カルガモ					-								
トビ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
オオタカ	-					-			-	-		-	
ツミ				-			-						
ハイタカ			-	-	-		-	-		-	-	-	○
ノスリ	-	-											
シロハヤブサ			-										
チゴハヤブサ					-	-	-	-	-				○
ウズラ				-	-	-	-	-	-				○
クイナ								-					
ムナグロ									-				
アオアシタビ									-				
タカブシ									-				
イソシギ				-									
ヤマシギ				-	-	-	-		-				○
タシギ									-				
オオシギ				-	-	-	-						○
キジバト				-	-	-	-	-	-	-			○
アオバト						-	-	-	-				
カウコウ					-	-	-	-					○
ツツドリ					-	-	-						
トラフズク				-	-	-	-						○
オオコノハズク			-										
フクロウ	-					-		-					
ヨタカ							-		-				
ハリオアマツバメ							-						
ヤマセミ			-							-			
カワセミ						-							
アリスイ				-	-		-						○
ヤマゲラ			-	-		-	-		-		-		
クマガラ									-	-			
アカゲラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○

種 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖
オオアカゲラ					-			-					
コアカゲラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
コゲラ		-	-							-	-		
ヒバリ			-	-	-	-	-	-	-	-			○
ショウドウツバメ						-	-						
キセキレイ									-				
ハクセキレイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
セグロセキレイ				-					-	-	-	-	
ビンズイ				-	-	-	-	-	-	-			○
タヒバリ										-			
ヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
モズ				-	-	-	-	-	-	-			○
アカモズ					-	-	-	-					
キレンジャク				-									
カワガラス		-								-			
ミソサザイ											-		
ノゴマ					-	-	-	-	-	-			○
ジョウビタキ												-	
ノビタキ				-	-	-	-	-	-	-			○
クロツグミ					-	-							
アカハラ					-	-	-	-	-	-			○
マミチャジナイ									-				
ツグミ	-	-	-	-	-				-	-	-	-	
ウグイス				-					-	-			
エゾセンニュウ						-	-	-					○
シマセンニュウ						-	-	-	-				○
マキノセンニュウ						-	-	-					○
コヨシキリ						-	-	-	-	-			○
メボソムシクイ						-				-			
エゾムシクイ					-	-							
センダイムシクイ					-	-	-	-	-				
キクイタダキ			-									-	
キビタキ					-	-	-	-	-				○
オオルリ					-								
コサメビタキ					-	-	-						○
エナガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
ハシブトガラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
コガラ									-				
ヒガラ	-	-	-	-	-					-	-	-	
シジュウカラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
ゴジュウカラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
キバシリ		-	-										
ホオジロ		-		-	-				-	-	-		
ホオアカ				-	-	-	-	-	-	-			○
カシラダカ				-	-				-	-	-	-	

種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖
ミヤマホオジロ										-	-	-	
シマアオジ					-	-	-	-	-				○
アオジ				-	-	-	-	-	-	-	-		○
オオジュリン				-	-								
アトリ		-	-	-	-								
カワラヒワ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			○
ベニヒワ	-	-	-								-	-	
マヒワ		-	-	-									
オオマシコ			-										
ギンザンマシコ	-												
イスカ				-	-								
ベニマシコ		-		-	-	-	-	-	-	-	-		○
ウソ	-	-	-	-							-	-	
イカル				-	-	-	-	-					
シメ				-	-	-	-	-	-	-	-		○
ニューナイスズメ				-	-	-	-	-					○
スズメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
コムクドリ				-	-	-	-	-	-	-	-		○
ムクドリ			-	-	-	-	-	-	-	-	-		○
カケス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハシボソガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
ハシブトガラス	-		-	-	-	-		-	-		-	-	
ドバト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○

〒080 帯広市稲田町西2線13番地

## ハシブトガラスのペリットにみられた シウリザクラとツタウルシの核果

斎藤新一郎

8月の下旬に、知床はウトロの岸壁で、弁当を食べていたとき、目の前にオオセグロカモメが7羽、ハシブトガラスが2羽集り、加工場から投げられた魚のはらわたを、争って食べていた。白い方が黒い方よりも強かった。

弁当を食べ終えて、立上ったとき、足が何かを踏んだ。小さい粒々の塊りであり、ペリットであることがわかった。その粒々は、木の実の一部であった(図-1)。

美唄にもち帰って、水洗いして、ペリットの中味を調べた。6個とも内容物が多少とも違っていたが、全体として、昆虫と樹木のタネ(散布体)とであった。

昆虫では、判明したのは、セミ(エゾゼミ類)だけであって、複眼が12個数えられ、6+α匹が食われた、とみられた。

タネでは、4樹種が明らかとなった。それらは、ツタ



図-1 岸壁に吐き出されたペリット

ウルシの核果、シウリザクラの核果、ヤマブドウの種子、およびイチイの種子であった。(図-2)。それぞれの粒数は、237、22、2および1個であった。つまり、大部分がツタウルシで、シウリザクラがいくらかまじる程度であった。

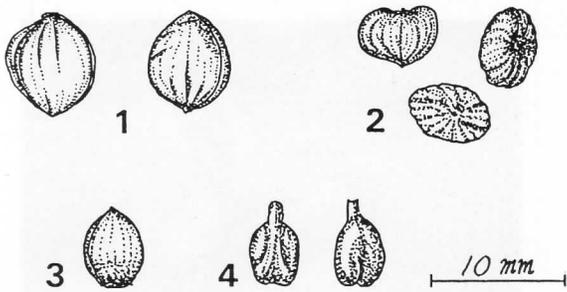


図-2 ペリットの木本たね

1. シウリザクラ、 2. ツタウルシ、
3. イチイ、 4. ヤマブドウ

ハシブトガラスは、オオセグロカモメの可能性もあるが、この崖壁で魚を食べ、森に飛んでセミを食べ、デザートに木の実を食べている、とみられた。

セミは食べられれば終りであるが、木の実を食べられて、果肉(イチイは仮種皮)を消化されても、タネ(核+種子、ヤマブドウおよびイチイは種子)は無事にペリットとして吐き出されるのである。ペリットが適所に落とされれば、タネは発芽し、生長して、やがて親木となることができる。被食型のタネ散布というわけである。

近くの遠音別神社の森に、シウリザクラが生育してい

て、折から、果穂が無数に垂下し、大豊作のなり年であった。果穂(総状果序)を12本とって、1果穂あたりの果実数を調べたら、6~17粒(平均は11粒)であった(図-3)。果実は、黒熟し、やや平球形で、直径が7~12mmであり、100粒の平均では、重さが0.50gであった。核(内果皮)は、長さが6~8mmであり、重さが0.12gであった。

旭川市の旭山スキー場では、エゾヤマザクラがカラスによって、ペリットとして散布され、斜里町ウトロでは、シウリザクラが同じように散布されている。デザートとしてかはさておいて、サクラ属種のタネ散布は、カラス類にかなり依存しているように思われる。

広葉樹林が近くにあるビルディングの屋上で、カラスがよく集まる所であるならば、ペリットを調べることにより、どの木の実が食べられているかを知ることができる。ヒグマやキタキツネのフソコロジーよりも、手軽で安全な、このペリット調べを、ナチュラルリストの初級者にお勧めします。

### 謝 辞

昆虫の同定については、上條一昭博士にお世話になりました。

### 参考文献

斎藤新一郎, 1979. 果実を食べる鳥と多肉果をつける樹木の関係. 北海道野鳥だより, 35:10.

\_\_\_\_\_, 1984. エゾヤマザクラとカラス. 北海道野鳥だより, 58:8~9.

〒079-01 美唄市峰延町本町北2

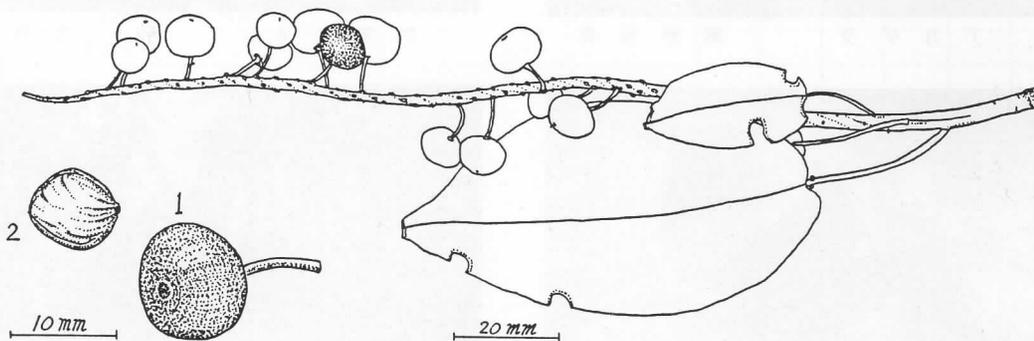


図-3 シウリザクラの果穂

1. 果実、 2. 核

# 誌 上 写 真 展

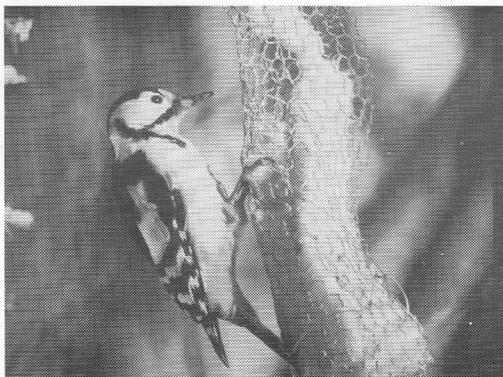
前号に引き続き、野鳥写真展に出展された作品をご紹介します。



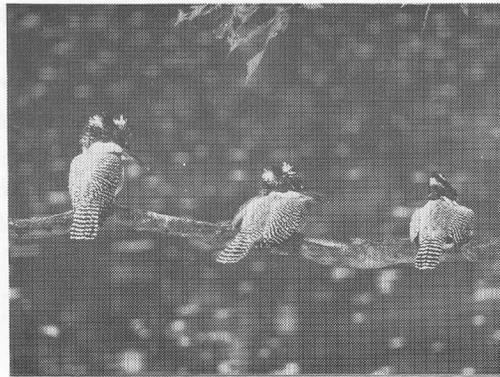
カワセミ 佐藤康雄



アカショウビン 佐藤康雄



アカゲラ 高野秀樹



ヤマセミ 林大作



ショウドウツバメ 山田良造



アオバズク 山田良造

# ウトナイ湖探鳥会でコウノトリ

去る11月15日、ウトナイ湖は快晴無風、此の時季としては温暖と絶好の日和に恵まれ、57名と多々参加者を迎え定例探鳥会が行われました。11月9日、ウトナイ湖にコウノトリが飛来したとの新聞記事を読んで以来、なんとか15日迄はとどまって居て欲しいの念いを込めて、此の15日を待ち焦れた愛鳥家も多かったに違いありません。当のコウノトリの胸の中は知る由もないが、幸せを運んで来ると云われるコウノトリ、真に幸運をもたらし、多勢の愛鳥家を大いに興奮させて呉れました。

先号にも一寸紹介のとおり、コウノトリの飛来は本道ばかりでなく全国的にも少ない処から、従来は殆ど情報を頼りに追い求めたり、偶然に出合っの観察が多く、今回の様に定例の探鳥会で多勢の参加者が全員観察出来た事は極めて珍しい事で、会としても幸運にあやかれた事を喜んでいる次第です。昨年はアネハヅル、今年はコウノトリと、2年続きの大型珍鳥の観察の場になったウトナイ湖に、来年も又胸踊らす珍客の来訪を期待したいものです。

コウノトリは体長112cm、翼巾200cm、全体は白く風切羽は黒色で、太く長い嘴は黒、目の周りが赤く、長い脚は淡紅色、高い木や屋根、塔の上などに枯枝を集め大きな巣を造り、湖沼や大きな川等の湿地を生活の場とし、魚・蛙・昆虫等を捕食します。殆ど声を出すことなく、代りに嘴を叩き合わせてカタカタと音を出し、木の枝にとまって休みます。

日本では兵庫県と福井県で繁殖していましたが、昭和



コウノトリ

46年絶滅し、現在は北朝鮮からシベリヤ南東部一帯で繁殖、中国南東部で越冬することが知られています。

近年、道内での記録は次のとおりです。

昭和58年 風蓮湖

昭和59年10月 ウトナイ湖

昭和61年4月17日 大樹町

昭和62年3月29日 野幌

昭和62年4月4～5日 野幌

昭和62年4月3～5日 ウトナイ湖

昭和62年8月 湧別町コムケ沼

昭和62年11月7日 小清水町壽沸湖

昭和62年11月9日 ウトナイ湖

同一個体の可能性大。

(探鳥幹事 井上記)



## 野鳥大好き(鷓川)

62. 8. 30

森 優子

外の空気を吸うことは、実に気持ちいいものですね。今回、鷓川の探鳥会に参加させて

いただき、とてもよかったと思っています。

私が鳥に興味を持ったのは一年前の冬2月の頃、川沿いの一本の木に雀が30羽以上じっとうずくまっています。よっぽど寒かったのでしょうか。かなり近づいても逃げませんでした。最初はずいぶん大きな木の実が、なってるなど、見えたんです。10分ぐらい見とれてました。それからです、鳥の写真集や本など買いあさりしました。今年の六月の末頃はアカショウビンの声を聞いて興奮しましたが、あいにく姿はおめにかかれませんでした。鳥

の名まえも徐々におぼえていきます。これから冬にむかってちっちゃな庭に、餌台を二つくらいつくろうかと思っています。どんな鳥がくるか今からの楽しみです。もう毎日がたのしくなりました。

今回の水辺の鳥の探鳥は初めてで、コチドリ、ダイゼン、トウネン、キリアイなどというかわった名の鳥たちを、見せてもらいほんとによかったと思います。

今度、また探鳥会によらしてもらった時、井上さんたちに鳥の名まえの由来を、聞きたいと思いますのでよろしくおねがいします。

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、トウネン、ハマシギ、オバシギ、キリアイ、アオアシシギ、イソシギ、ソリハシ

シギ、オグロシギ、オオソリハシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト、ヒバリシギ 32種

〔参加者〕佐藤典子、栃本健二郎・文子、大野信明、伊藤恭子、宇井晴穂、佐々木武己、金上宣夫・由紀、森優子、竹内強、今泉秀吉、志田博明・政子、若林信男、松井昌、岩泉ゆう子、豊口肇・美代子、浪田良三・典子、

見延誠一、佐川節子、石谷義一、谷ロー芳・登志、松本六郎・美智子、丸山薫・かおり、柳沢信雄、水嶋利夫・貴広、天野昭二・玲子、福岡研也・玲子、道川弘・富美子、田中金作・礼子、今野弘、鈴木倫太郎、井上公雄以上44名

〔担当幹事〕道川富美子、井上公雄

〒066 千歳市高台3丁目27-148

## 鵜川の水鳥たち

今日は、はじめて鵜川へ行きました。福岡さんのそばについて望遠鏡をのぞかせてもらってたくさんの鳥を見ました。

一番印象に残っている鳥は、アオサギでした。はじめは、フラミンゴに見えましたが、「あの鳥は、アオサギだよ」と教えてもらってなっとくしました。遠くからだったのではっきりわかりませんでしたが大きくて堂々としていて鳥の王者にみえました。

その他秋にみられるのはめずらしいウミアイサ・シロカモメなどもいました。

メダイチドリは、保護色だったので見分けがつかせませんでした。

牧場からみたノビタキはのびのびとしていて、春らしい風景でした。

水鳥ははじめてでしたが、くちばしが長かったり特徴が少しわかりました。

野山で見るかわいらしい鳥ではなく自分の力でたくましく生きているように思えました。

私はただ鵜川へ行くというお母さんについていったけなのに、こんなにたくさんの鳥がみれてすこし得をした気分でした。

62. 9. 13

坪井 純子

〔記録された鳥〕アオサギ、コガモ、ウミアイサ、トビ、チュウヒ、チゴハヤブサ、メダイチドリ、ムナグロ、トウネン、ハマシギ、オバシギ、タシギ、クサシギ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 以上25種 解散後ミサゴ

〔参加者〕大町欽子、岩泉ゆう子、逸見康夫、難波茂雄、大野信明、富川徹、香川稔、柳沢信雄、小堀煌治、羽田恭子、石谷義一、犬飼弘、福岡研也、高倉まり子、佐々木武己、園部恭一、千葉広、杉田範男、横谷茂、森岡、佐久間典子、坪井光子・純子・知子、金上宣夫・由紀・倫子、水嶋民子・貴広、桂田泰恵・武彦、加藤武俊・美知子・甲人・久佳、田中金作・礼子、武沢和義・佐知子、高田雅之・早苗、戸津高保・以知子、佐藤彰夫・末利子、丸山薫・かおり、矢野昭二・玲子、大浦美佐子、道川弘・富美子、豊口肇・美代子、澁谷信六・弘子、井上公雄以上57名

〔担当幹事〕富川徹、戸津高保

〒064 札幌市中央区宮ヶ丘474-105

## 野幌森林公園

62. 10. 25

戸津以知子

森林を賑わしていた夏の鳥達も、いつの間にかひっそりと静まり返り、そろそろあちこちに冬鳥の便りが聞かれる秋、私も再びホームグラウンドに戻って来た感じのする久々の野幌探鳥会。年に何度となく訪れる所ですが、私にとって愛護会の探鳥会は鳥との出会いは勿論、皆さんに逢える事がとっても楽しみな一日なのです。

それにしても今日はあまり鳥の鳴き声も少ない様子。

昨年見たから、前回見たからと言って今日も又見られるとは限らないのは重々判っていても、期待して来た鳥達との出会いが、だんだん少なくなる様に思え私にとってはとても気がかりな事です。

ユズリハコースの“ななかまど”と松林の中に“ヒガラ”と“キクイタダキ”の群を見つけました。木々の中を見え隠れする様子は何度見ても私の心を虜にしてくれます。

今日は「キクイタダキ」が陽に照らされて頭上の紅色をも一瞬見る事が出来「ラッキー！」と思わず幸せな気分です。しかし今までは鳥の姿を追う事の方に一生懸命だったので、やはり鳴き声を聞き分けたいものと思っています。……とは言っても、「ゴジュウカラ」も50とは言わづとも5種類程の鳴きがあると聞いては、耳音痴の私には仲々難かしい事の様です。でもベテランの皆さんがすぐ判るには只々感心させられるばかりです。

紅葉の一日すばらしい秋の探鳥会でした。

「みみづくの眠る梢に粉雪舞ふ」(飯田龍太)

次に来る時には、どんな鳥が現われてくれる事でしょうか。

〔記録された鳥〕マガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、スズガモ、トビ、ハイタカ、ノスリ、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、

ルリビタキ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス 以上32種

〔参加者〕加藤武俊・美知子・甲人・久佳、高倉まり子、武沢和義・佐知子、渡辺加奈子、中村真、竹内強、福岡研也、川井光昭・健一、田中金作・礼子、難波茂雄、羽田恭子、豊口肇・美代子、戸津以知子、佐川節子、大野信明、品川陸生、柳沢信雄・千代子、香川稔、霜村耕介、早瀬広司、上村優子、大坊幸七、成沢里美、杉田範男、安藤あい子・香奈子・裕之、菅原賢治、佐藤彰夫・末利子、野口正男、松井昌、堀内進、犬飼弘、佐々木武巳、大浦美佐子、田辺至、井上公雄 以上46名

〔担当幹事〕早瀬広司、竹内強

〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1-14

## ウトナイ湖

この日はとても寒いことが予想されたので、スキー用のヤッケを着て、万全な防寒対策をして出かけたにもかかわらず、季節はずれの陽気となってしまって、絶好の探鳥日和りとなった。2、3日前、ある新聞紙上で「ウトナイ湖にコウノトリが渡来」という記事が載っていた。私は、「もしかしたら」という期待を胸にウトナイ湖へと向かった。到着した時、すでに数名の人が、ある一点を見つめていた。コウノトリは、私の期待に見事に答えてくれたのだ。探鳥会が始まり、移動しながらも、視線は常にコウノトリへ。探鳥会に来たはずなのに、いつのまにか、探コウノトリ会に変わっていた。

ある人が、小学生の数名に、「見てごらん。あれがコウノトリだよ。」と望遠鏡を譲った。

小学生は、「この、大きくて、しっぽが黒い奴でしょ？ あっ、飛んだ飛んだ！」

「そう。あれがコウノトリだよ。きれいだろ？ なんてたって、あれは特別天然記念物といって、鳥の中でも一番えらい鳥なんだから。」

「じゃあ、あの隣にいるのはえらくないの？」

「あれは、アオサギといって、天然記念物だから、鳥の中ではえらい方だけど、コウノトリは、特別天然記念物だから、もっとえらいんだ……。」などと、まるで自分がコウノトリのように誇らしげに話す。そして、コウノトリが動作するたびに、みんな「向こう向いている」「こっち向いている」「飛んだ飛んだ」と敏感に反応した。それだけ、コウノトリを実際に見れて、私も含めてうれしかったのだろう。

62. 11. 15

## 水嶋 貴広

この日は他に、ウミアイサ、チュウヒ、コハクチョウなど、23種類見れたのだが、このうちのほとんどが、コウノトリ一羽のおかげで影が薄かった。これら23種類にとっては、いい迷惑であっただろう。

私は、いずれまたコウノトリに会えることを祈って帰りの車に乗った。

〔記録された鳥〕アオサギ、コウノトリ、ヒシクイ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、トビ、オジロワシ、チュウヒ、ハヤブサ、カモメ、ハクセキレイ、ハシブトガラ、シジュウカラ、スズメ、ハシボソガラス 以上24種

〔参加者〕石谷義一・和子、井上公雄、今泉秀吉、宇井晴穂、上村優子、大野信明、大町欽子、岡多トヨ子、香川稔、加藤武俊・美知子・久佳・甲人、小林正男・美智子、今野弘、佐々木武巳、佐藤彰夫・典子、白澤昌彦・瑠美子・光明・真紀子、高倉マリ子、高柳信子、竹内強、田中金作・礼子、谷口一芳・登志、玉井龍男・繁美、富川徹・明美・優、豊口肇・美代子、浪田良三・典子、成沢里美、野口正男、羽田恭子、母坪縫子、福岡研也・玲子、堀内進、松井昌、丸山薫、水嶋貴広、道川弘・富美子、柳沢信雄・千代子、山田甚一・玲子、渡辺紀久雄 以上57名

〔担当幹事〕堀内進、渡辺紀久雄

〒004 札幌市白石区青葉町3丁目2-9-101



【野幌森林公園】

昭和63年2月14日(日)  
苛酷な自然の中でカラ類、  
キツキ類の留鳥を中心に、  
遅く生きている姿を観察  
します。マヒワ、ウソ、ツ

グミも見られ運が良ければクマゲラに出会うことも。スキーが有れば楽ですが素歩きでも支障はありません。防寒に気を付け冬の野幌を歩くのも夏にない味わいです。

午前9時 大沢口駐車場入口集合

【円山公園】昭和63年3月6日(日)

日中の陽差しが春の訪れを告げる様な快い日も多くなり鳥達の動きも活発になって来ます。公園管理事務所前の餌台に集る鳥と公園内を散策しながらの探鳥が中心になります。その年々で見られる種類に多少の変化はありますが、ツグミ、カワラヒワ、アトリ、キレンジャク、ハギマシコ、ウソ、カラ類、キツキ類が見られます。

地下鉄円山駅から近く(徒歩2分)午前中で解散します。気軽に参加して下さい。

午前10時 円山公園管理事務所前集合

【ウトナイ湖】昭和63年3月27日(日)

渡りの中継地としても有名なウトナイ湖もその時季を迎え、マガン、ヒシクイ、ハクチョウ、多くのカモ類が集り湖面を賑わします。オジロワン、オオワンを含め昨年は35種の確認が出来ました。

珍しいものも見られます。知合い方をお誘いして一人でも多くの人に探鳥の楽しさを経験して頂き度いと思えます。

午前10時 ウトナイレイクホテル湖畔側集合  
往 千歳空港発9時10分 道南バス、ウトナイレイクラ  
ンド前下車

帰 レイクランド前発13時40分札幌行特急、中央バスあ  
るいは14時28分・14時53分千歳空港行道南バス

【野幌森林公園】昭和63年4月17・24日(日)

雪の融けるのを待ちかねた様に野幌にも鳥たちが戻って来ます。福寿草も可憐な花を付け、留鳥のカラ・キツキ類も春の訪れを喜び、活発に動き囁き始めます。夏をここで過すもの更に北へ向う途中立ち寄って羽根を休めるものと色々ですが、一様に長旅を経験して来た鳥たちです。枯木の林で鳴く声を聴き憶えながら探し出す喜びも味わってみてはいかがでしょうか。

【野幌森林公園を歩きましょう】昭和63年4月10日

午前9時 大沢口駐車場入口集合

いずれの探鳥会も暴風雨雪でない限り行います。昼食(円山公園探鳥会は除く)筆記具、観察用具をご用意下さい。

探鳥会についての問い合わせは011-551-6321 井上まで



◆新年懇談会の

開催について

新年懇談会を次のとおり開催しますので、多数ご参加ください。

日時 昭和63年1月23日

(土) 午後2時から

場所 札幌市婦人文化センター(中央区大通西19丁目)

内容 ・講演: 本会の会員で北海道開拓記念館に勤務の村野紀雄氏にヨーロッパ訪問の際のみやげ話などをしていただきます。

・スライド映写

(毎年恒例のスライド映写会です。たくさん作品をお持ち寄りください。)

会費 500円

◆アンケート調査のお願い

先日お送りしたアンケート調査は、現在150通を越す回答をいただいています。もう少しお待ちしてから、集計いたしますので、まだ回答されていない方は、急いでお送りください。このアンケートは、これからの会の活動の参考にするものですので、よろしくご協力をお願いします。

◆おわびと訂正

野鳥だより69号の「障害保険の更新」の記事の中で、亡くなられた場合「3,000万円」と記載いたしました。が、「300万円」の誤りですので、おわびして訂正します。

また、アンケート調査の記事の中で、調査用紙を同封すると記載しておりましたが、発送の段階で、同封すると1件当たり40円郵送料が高くなるため、別送した次第です。

ご迷惑をおかけしたことを、おわびいたします。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1 - 18287

〒060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465